

入学にむけての Q&A

Q1. まだ文字を読んだり書いたりすることができないのですが、大丈夫でしょうか？

A. 小学校に入学してから、文字を学びます。鉛筆の持ち方、書く時の姿勢、正しい書き順などを少しずつ学んでいきます。

お子さんが新しい環境の中で安心できるように「自分の名前」に関心をもっておくといでしょう。持ち物に名前を書くことも自分の名前を見る機会を増やすことにつながります。

入学してから困らないようにと無理やり文字の練習をするのは望ましくありません。まずは、一緒にお話しながら手紙を書いたり、絵本を読んだりして、文字を書いたり読んだりすることに興味をもたせることから始めてみましょう。「おもしろそう」「もっと知りたい」の気持ちが、小学校以降の主体的に学習に向かう姿勢にもつながります。

ちょっとひと工夫



身の回りの物の名前を付箋に書いて貼っています。自然と文字を意識できますよ。

Q2. 食べるのが遅い、食物アレルギー等、給食が心配です。

A. 学校では、給食を食べる時間は概ね 20 分程度ですが、1 年生の初めは、食べられる量などを考慮し、食事時間を他の学年よりもゆったりと設定するような工夫をしています。家庭では、テレビを消して家族で会話をしながら、楽しく食事を進められる工夫をしてみませんか。

食物アレルギーについては、医師の診断のもと、アレルギー食材の除去食対応を行います。就学時の健診や入学説明会等、入学前に就学先の小学校にご相談ください。



牛乳、ごはん、さわらの幽庵焼き、いそ香和え、みつばのすまし汁、わらびもち

Q3. ちゃんと登下校ができるか心配です。

A. 通学班での登下校を基本としている学校もあれば、自由登下校の学校もあります。入学説明会等で登下校の方法等を確認しましょう。スクールバス等を利用する地区もありますが、徒歩の必要がある場合、ご家庭では、入学までに雨の日と晴れの日、一度ずつは通学路をお子さんと一緒に歩いておくとい安心です。「子ども 110 番の家」の確認もしておくといでしょう。

また、集合時刻を守ることも必要です。時計を見て行動する習慣をつけるようにしましょう。

Q4. 学校が終わった後、子どもたちが過ごせる場所について教えてください。

A. 放課後児童クラブ、放課後子供教室、放課後等デイサービスの利用ができます。放課後や土曜日、長期休業日に、保護者が仕事などで昼間家にいない小学生の家庭に代わる生活の拠点となる場所です。家庭的な雰囲気の中で、子どもたちが自主的に宿題をしたり、本を読んだり、おやつを食べたりして安全に放課後の時間を過ごします。

各校区等によって異なりますので、利用条件等詳しくは庄原市ホームページをご覧ください。

庄原市 児童クラブ



Q5. 心配なことがあるときにはどこに相談すればよいですか。

A. 「着落感がなく、授業中立ち歩いてしまうのでは…」 「先生や友達にうまく気持ちを伝えられるか心配」等、就学に関して心配なことや配慮してほしいこと等がありましたら、まずは通っている園・所、あるいは児童福祉課にご相談ください。保護者の方と共に考え、必要に応じて関係機関を紹介し、小学校と連携します。

庄原市 生活福祉部 児童福祉課

TEL.0824-73-1192 FAX.0824-75-0195 Mail: jidou-fukushi@city.shobara.lg.jp

庄原市教育委員会 教育部 教育指導課

TEL.0824-73-1184 FAX.0824-73-1254 Mail: edu-sidou@city.shobara.lg.jp

お問合せ

育ちをつなぐ 遊びと学び 今と未来



子どもたちの「今」は未来へとつながります。全力で遊んだ経験や親子での温もりのあるやりとりは、子どもたちが豊かに成長するための土台となります。

庄原市では、「今」を生きる子どもたちが保育所・幼稚園・こども園で思いっきり遊び、遊びを通して芽生えた力を小学校での学びに生かせるよう、園・所と小学校が連携しています。このリーフレットは、一人一人の子どもたちが全力で充実した「今」を過ごせるよう、家庭、地域、園・所、小学校が協働して子どもたちの成長を見守り支えることを目指して作成しました。

庄原市・庄原市教育委員会

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようにする
(知識・技能の基礎)

気付いたことや、できるようになったことなどを使って、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする
(思考力・判断力・表現力の基礎)

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする
(学びに向かう力、人間性等)

遊びを通して学ぶ時期

学びの芽生え



遊びで育んだ5つの力が小学校での生活や学習の基盤となります

アプローチカリキュラム

各教科等の学習を通して学ぶ時期

自覚的な学び



園・所での遊びや生活とのつながりを意識して学習を進めています

スタートカリキュラム

何を理解しているか、何ができるか
(知識及び技能)

理解していること・できることをどう使うか
(思考力、判断力、表現力等)

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか
(学びに向かう力、人間性等)

0歳…

年長児

小学1年生

…18歳

子どものよりよい成長に向け 家庭で大切にしたい3つのこと

1 生活リズムを整えましょう！

生活リズムが整うことで、学習や運動に向かう気持ちや、自分のことは自分ですといった自立に向かう気持ちが高まります。

● 早寝・早起き・朝ごはん



目安は9時間以上



気持ちのよい1日のスタート



少量でも必ず

● あいさつ・返事

人と人との関係づくりの第1歩です。大人の姿を見ながら、子どもたちも自然とできるようになります。

● たっぷり遊ぼう

昼間、体を動かして遊ぶことは、しっかりと睡眠ができることにもつながります。体を動かす遊びや自然体験など、家族と一緒に楽しみましょう。そのためには、家庭で、テレビやゲームのルールを決めておくことも必要です。

2

家庭が子どもにとっての『安心基地』となるようにしましょう！

どんな時もあるままの自分が受容され、安心して自己発揮する中で、自分のよさに気づき、好きなこと、得意なこと、できることが増えていきます。

● 小さな成長に目を向けよう

できていないことを見つけるのではなく、これまでの成長を肯定し、一緒に喜び合いましょう。他者との比較ではなく、小さな成長の積み重ねをしっかりと褒めましょう。

● I(アイ)メッセージを送ろう

「私はあなたの成長がうれしい」「私は今のあなたが大好きだ」とお子さんに伝えていきましょう。子ども自身が愛されていると感じた時、意欲や挑戦する力になります。

● たくさん話そう

言葉で気持ちや思いを伝え合う力が育まれます。特に、子どもの話を最後まで聞くようにしましょう。聞いてもらえること、受け止めてもらえることは心の安定にもつながります。

3

子どもの「やってみよう」を大切にしましょう！

夢中になって遊ぶ中に多くの学びがあります。生活に必要な知識や技能、考える力を遊びを通して身に付けていきます。

● 見守ろう

子どもは失敗を繰り返しながら成長していきます。失敗しないように先回りするのではなく、まずは子どものチャレンジを見守りましょう。チャレンジする姿を見守られ、認められることで主体性や自己肯定感が生まれます。

● 子どもに決めさせよう

どうすればいいか一緒に考え、子どもが決めたことを尊重しましょう。主体性をのばすことにもつながります。

● お手伝いに感謝しよう

幼児期の子どものお手伝いは、はじめは保護者の姿を真似ることの楽しさや「やってみよう」という気持ちから始まります。できた程度に関わらず、「ありがとう」の言葉が返ってくることで子どもたちは人のために何かすることの心地よさを感じることができます。